

# 生涯、患者さんのお口を守っていくためには、 患者さんに自分自身を知ってもらうことが必要です。



『むし歯を治すことより、ならないことを考える』を治療方針に掲げるマリモ歯科・矯正。院長の藤井雅隆先生が、開業に際して絶対に必要と考えていたのが『デントカルト』によるだ液検査です。なぜ、だ液検査をするのか、それによって何が実現したのか。藤井先生と、お二人の歯科衛生士、福山さんと太田さんにお話を聞きました。

## 患者さんが一番大切にしていることは？

**藤井先生** 学生時代から“患者さんの本当の利益って何だろう？”と、ずっと考えていました。勤務医として矯正の医院に勤めているとき、ある患者さんと深くお話する機会があり、「なんでうちの医院に来てくれているんですか？」とお聞きしたんです。そうしたら、治療の技術などではなく、「患者さんの歯を守っていこうという姿勢が感じられるから」というお答えでした。

そのときに、患者さんが本当に大切にしているのは“歯を守る”ということなんじゃないかと思ったんです。一度むし歯の治療をしたり、手をつけた歯はもう元には戻りません。そうなる前に、患者さんにしっかり知識と予防法を身に付けてほしい。そして、自分自身で「生涯むし歯のないお口」を守り育ててほしい。これが、患者さんにとって一番幸せになる方法であり、本当の利益なのだと思います。それを提供するために、僕はマリモ歯科・矯正を開業しました。

矯正の勉強をしてきたのも、予防歯科を地域に根付かせるためです。歯並びはお口の中の環境の大きなリスクファクターなので、リスクを下げるアプローチとしての矯正です。矯正をしている患者さんには、歯並びを良くしたい方もいれば、顎の関節が痛い方、うまく噛めないから矯正したいという方もいます。入口はこれらの理由だったとしても、皆さんに歯並び以外のことも知っていただき、ずっとお口が健康な状態で歩み続けて欲しいんです。

## 患者さんは自分の口のことを知りたいし、 良くしたい

**藤井先生** お口の中の環境を守るうえで、非常に重要になるのがリスク管理です。現状はどのような状態で、どれだけむし歯になりやすくて、どうすれば予防ができるのか。それを知る方法は、だ液検査しかありません。



マリモ歯科・矯正(神奈川県逗子市)  
院長 藤井雅隆先生

歯科衛生士  
福山さや子さん

歯科衛生士  
太田千晴さん

初診時のカウンセリングで「将来のお口の中を、私たちと一緒に健康に豊かにしていきましょう!」と必ず提案し、共感していただけた方を対象にだ液検査を行なっています。開業して約8年になりますが、今では、来院する患者さんの9割の方に受けていただいています。

**福山さん** だ液検査を導入した当初はやはり不安もありましたが、アポイントが入っているので、もう必死にやるしかありません。初めのうちは検査結果を院長に見せ、どういう風に患者さんをコンサルするかをプレゼンして、意見をもらってから患者さんにお話していました。

私が感じるだ液検査のメリットは、結果を元にお話するとコミュニケーションがとりやすいということ。患者さんもブラッシングの状態から仕事や学校、ご家族の話まで、いろんな情報を教えてくれるので、相手のことを深く知るきっかけになっています。

また、お口の中のリスクに関しては、「どうしてだと思いますか?」と質問を混ぜながら、原因を一緒に考えるようにしています。そうすることで、患者さんも受け身で話を聞くだけでなく、きちんと考えてくれて問診では出てこなかった情報も出てきたりするんです。

**太田さん** 以前勤めていた歯科医院でも、『デントカルト』ではない他の検査キットを使ってだ液検査をやっていました。数字だけで示されるそれらに比べて、デントカルトは菌が浮き出てきます。患者さんにとって、視覚的にすごく印象が強いですね。

また、だ液検査をやっていない医院さんと比べると、単に磨くのが下手などではなく、むし歯の原因が深い所までわかります。患者さんの質問のレベルも変わってくるんですよ。「口腔乾燥の自覚があるんだけど、普段のだ液の量はどうですか?」とか、「ミュータンス菌を減らすにはどうし

たらよいですか?」とか。だ液検査をきっかけに自分と向き合うようになるんですね。もともと患者さんは自分のお口のことを知りたいし良くしたいのに、今まで医院側が働きかけてこなかったんじゃないか、と感じることが多いです。

年齢も関係ないですね。成人だけでなく、「僕はミュータンス菌が多くてだ液の量も弟より少ない。だからキシリトールガムでがんばろう!」というお子さんもいるんですよ。さまざまな年齢で、このような変化が現われています。

## 歯科医院として、治療の本質は絶対に曲げない

**福山さん** 実は、だ液検査を断る患者さんが多かった時期もありました。でも、院長は絶対に受けてもらうという姿勢だったので、私たちスタッフも患者さんに納得してもらえよう練習を重ねて、今に至っています。

先日、「むし歯の治療をしてほしいんです」とパツと飛び込みでいらっしゃった患者さんがいました。今、初診の方には受付のスタッフがコンサルしているんです。「当院はこういう医院です」「だ液検査をします」と。その後で私があらためて「ここは予防歯科です。いろいろ検査をしますが、大丈夫ですか?」と聞いたら、「最初はどうかかなと思ったけど、自分の口の中を知れるならと、やる気になった。この医院に来て良かった」とおっしゃったんですよ。ずっとブレずにやってきて良かったと思いましたね。

**藤井先生** 歯科にはいろいろな検査がありますが、だ液検査をやめようと思ったことはないですね。歯科医院として、自分たちの治療の本質である「生涯、患者さんのお口を守る」を絶対に曲げないためです。

だ液検査は、「むし歯のなりやすい・なりにくいかわかる検査キット」というよりは、「自分自身を知ってもらうためのツール」です。僕らは患者さんを生涯サポートする気持ちですが、治療が終われば、会えるのは年間3日か4日くらい。結局、患者さん自身で歩み続けられないといけないですね。そのために、お口の健康を守るためにはどう動かなければいけないのか、どういう判断が必要なのか、しっかりと知っていただく。それができるのが、だ液検査なんです。